

第7回  
千代田西部小学校

# 私たちの学校自慢

この連載は、市内の小中学校を訪ね、他の学校には負けないという「学校自慢」を子どもたちに紹介してもらおうコーナーです。



7回目は、千代田西部小学校です。運営ボランティア委員会委員長の光武裕介さん、副委員長の中村和明さん、塚本螢さん、黒板書記の西村夢叶さん、多久島祐大さん、ノート書記の中村希さんの6人に話を聞きました。

## この学校の自慢は何ですか？

- 光武さん 「みんな仲が良いこと」
- 中村かきん 「センドンの木があり、校章にも使われていること」
- 塚本さん 「3つの宝 素直な心」
- 西村さん 「3つの宝 大きな歌声」
- 多久島さん 「3つの宝 元気なあいさつ」
- 中村のきん 「チャイムが鳴らないこと」



いろいろな意見ができましたが、3つの宝という言葉ができました。これは、守らなければいけない教えとして、平成17年に作られ、受け継がれているものです。千代田西部小学校の始まりは、明治8年、境原の篤志家・吉岡太助が佐賀の乱で荒廃した様子を見て「これからは、武から文に変わる人づくりをしなれば」と私財を投じて作った吉岡小学校にさかのぼります。

当時の就学率は低く、これを憂いた村長が学問の重要性を村民に説き、明治24年に有志を募り、現在の場所に学校を建設しました。以来、村民にも建学の精神が受け継がれ、村民総出の労働奉仕で学校の拡張工事が行われるほど。そのころ、学校のシンボルであるセンドンの木も植えられたというこ



地域との交流が行われるせんだん祭り

昭和50年に学校創立百周年を記念して、卒業生有志が学校に寄贈した碑文には「回想百年せんだんの子 われらここに未来を創造せん」と刻まれています。明治からのセンドンの木は枯れてしまいましたが、新たに植樹された木が立派に育ち、校風を伝えていきます。それと、同じように、平成12年にノーチャイム導入、その後、3つの宝を定め、新しい伝統を作りつつあります。

新興住宅地の増加で人の出入りが多い地域となった昨今ですが、せんだん祭りや感謝集会など、地域との関わりが盛んで、これも、建学の志が根付いている証拠でしょう。

委員長に次の運営委員へ望むことを聞くと「運営ボランティア委員会は学校の頭と言われているので、誇りを持って取り組んでほしい」とのこと。先人たちの意志を継ぎ、立派な人物になつてほしいものです。

千代田西部小学校の自慢は「せんだんの子を育む3つの宝」と言えるでしょう。



### 校長先生から一言

3つの宝をお互いに磨きあつて、今以上に、すばらしい西部小学校にしていきたいと思います。

千代田西部小学校 校長 永野 篤子